

神道夢想流杖術とシェイクスピア

—秘められた志向性と超越性について—

平木 茂

序言

I 神道夢想流杖術

- 1 神道夢想流杖術の形
- 2 秘められた志向性
- 3 形の超越性

II 『ヴェニスの商人』

- 1 バサーニオーとの舞台
- 2 シャイロックとの舞台
- 3 ポーシャとの舞台
- 4 秘められた「泣き役」の原点
- 5 價値観の視点

III 東西における接点

- 1 神道夢想流杖術形とアントニオの本質
- 2 藝術の普遍的本質

結言

参考・引用文献

序 言

古伝武藝の一派である神道夢想流杖術の形には、無への志向性と自己とわざを超えた妙術・妙花が開花する超越性を有している。それ故に、言わば優れた藝術作品として時代をも超越している。¹

ここでは、この藝術作品の觀点より、同様に時代を超越しているシェイクスピア作品『ヴェニスの商人』に、その視点をあてたい。

その作品において、商人アントニーは、商人的価値觀に立脚した存在ではなく、全く異なる境地における存在が秘められている。そのことは、彼が友人のグラシャーノーに対して、この世は舞台、誰も、そこでは一役演じなければならない、そして、彼の一役は「泣き役」であると語ることによる。

つまり、この作品において、彼は、所謂単に泣いていない。そこに秘められた本質がそれを示している。

そして、そこには、古伝武藝形の妙術・妙花における志向性と超越性における本質的接点が想定される。

この接点は、東西を問わず名作の要素の普遍的本質として位置付けられるであろう。そこで、当流におけるそれを前提として『ヴェニスの商人』のそれぞれの場面に、そのスポットライトをあて検証していくものとする。

I 神道夢想流杖術

日本古来より伝承されている古伝武藝の一派に「神道夢想流杖術」がある。ここでは、そこにおける形について考察する。

1 神道夢想流杖術の形

日本古来より伝承される古武藝の一派に神道夢想流杖術がある。武器は杖である。その術は、打ち・突き・当て身・払い等において、左右長短自在に変転させて対処する。創始者は、夢想権之助勝吉である。伝書に次の古歌が記されている。

一〇三 突けば槍 扱えば長刀 もてば太刀 杖はかくにも 外れざりけり²

この歌からも読み取れるように、まさに太刀、槍、長刀等を総合した武術として拡

充されている。

伝承形は、次の目録のとおりである。

表業	太刀落
	鍔割
	著杖
	引提
	左貫
	右貫
	震
	物見
	笠之下
	一礼
	寝屋之内
	細道 ³

これらの形の内容は、基本的に、その名称に相対していると読み取れる。つまり、一本目の「鍔割」においては、まさに、太刀の鍔を割ることにより、わざが展開される等である。これは、以下の形においても基本的に同様である。

そして、この十二本の表業の展開は、「体の運用と技の操作に変化の多いのが特徴である。⁴」言わば総体的に動的なわざと言えるであろう。

中段	一刀
	押詰
	亂留
	後杖（前・後）
	待車
	間込
	切懸
	真進
	雷打
	横切留
	拂留

清眼⁵

この十二本の中段においては、「動きが激しく豪快な技が多い。⁶」言わば表業の動に力強さが加わるわざと言えるであろう。

影	太刀落
	鍔割
	著杖
	引サケ
	左貫
	右貫
	霞
	物見
	笠ノ下
	一礼
	寝屋ノ内
	細道 ⁷

影は、表業と名称は全く同様であるが、そのわざの展開は、表業・中段の動的に対して、一転して極めて静的な要素を主としている。「体さばき或いは杖の使い方に特別のスピード感はないが、静と動、緩と急、或いは呼吸法に相当の技倅を要する。⁸」わざ数は、少なく洗練さを増している。

五月雨	一文字
	十文字
	二刀小太刀落
	ミジン
	同裏
	眼ツブシ ⁹

○ 五月雨においても、わざの展開は、影に類似している。

奥伝	先勝
----	----

突出
打付
小手留
引捨
小手搦
十手
見返
アウン
打分
水月
左右留

八通大太刀

四通小太刀¹⁰

奥伝に至っては、更に境地を異にする。「奥伝は杖道修行の最終段階における技で、名称のとおりきわめて奥深いものがある。修行年数は勿論、技の理念、人間性など、相当の位を有し、しかも杖道精神に徹した人格者に限って伝授が許される。¹¹」とされている。

また、演武の展開は、「瞬間的なスピード、気品、充実した氣勢と呼吸等の作用が重要な要素になっていて、技の構成は一見して平凡に見えるが、一瞬の油断も許されない心・技・体の完全な一致が要求される、いわば極意に通じる組形である。¹²」総体的に儀式的様相を呈しており、更にわざ数は少ない。

極意秘伝 閻打
夢枕
村雲
稻妻
導母¹³

当域は、秘伝であり「人格、見識、指導能力等が十分に完成したものに対してのみ伝授される形であり、積極的に伝授を乞うものではない。あくまでも神道夢想流杖道の正統を継ぐ者に限られている。¹⁴」と伝承されている。

以上、これらの形は、理合いに基づいて、打ち筋・突き筋・払い筋等が確立され、それらの組み合わせにより、さまざまにわざが成立している。

これらの理合いの生成は、近代における竹刀剣道からも想定される。つまり、初心者は、動きに無駄が多い。しかし、やがて自ら覚り、無駄な動きは、少なくなる。そして、繰り出すわざは、必ず急所を打ち、明らかに勝敗を決するようになる。ここに至り、この道の達人の域に位置する。

この結果、さまざまに理合いが成立する。

これが、独自の形となり、流派として伝承される。ここに、形稽古は、わざの修得において、最も無駄のない、最善の方法として確立されるのである。

神道夢想流杖術において、初心者は、表業の形を繰り返し稽古する。そして、順次、中段・影・五月雨・奥伝と修業する。さらに、極意秘伝に至っては、わざを超えた域に位した者への伝承である。これを修めて免許皆伝者となる。

つまり、流派の主体は、形である。そして、形の上に、または、形に付隨して極意がある。この極意は、その流派を長年修行し、師にわざと人格ともに認められた人物に伝承される。

2 秘められた志向性

当流の形は、表業・中段・影・五月雨・奥伝・極意秘伝と進展するに従って、基本的にわざ数が減っている。

特に、極意秘伝に至っては、秘伝として一般の視界から無と化していく。

また、その名称においてもそれが暗示されている。表業は、表に位置する。中段は、中程に進展する。影は、さらに進展し影のみを残す。五月雨は、その影さえ打ち消すかの如くである。奥伝は、表業、中段、影、五月雨等に対して、遂に奥に進展する。そして、さらに、極意秘伝に至っては、全く秘境に位置する。

このように、形の志向性は、漸次消化していくことがある。

3 形の超越性

当流の伝書に次の古歌も伝承されている。

傷つけず 人をこらして戒むる

教えは杖の外にやはある¹⁵

この歌では、わざの域を脱して精神の域への超越が意図されている。

つまり、稽古の基本は、形の修得である。そこにおける自己は、全く受動的である。極みの形に対して個人の意思は超越される。形を全面的に受け入れ、その本質を体得する。その上で、形は、自らの内に確立される。

そして、さらには、形の志向性を得ることにより、わざをも超えて精神の域にまで及んでいくことになる。

II 『ヴェニスの商人』

当作品の主人公であるアントーニオが登場しての第一声は、次の言葉である。

Ant. In sooth, I know not why I am so sad:
It wearies me; you say it wearies you;
But how I caught it, found it, or came by it,
What stuff'tis made of, whereof it is born,
I am to learn;
And such a want-wit sadness makes of me,
That I have much ado to know myself.¹⁶

ヴェニスの商人である彼は、まったく訳が分からない、どうして、こうも気がめいるのか。・・・・自分で自分の心を掴みあぐねている・・・と述べている。

この点について、彼は、さらに次のように語っている。

Salar. • • •

Is sad to think upon his merchandise.

Ant. • • •

Therefore my merchandise makes me not sad.

Salar. Why, then you are in love.

Ant.

Fie, fie!

Salar. Not in love neither? • • •¹⁷

彼は、友人ソレイニオーとの会話で財産・船荷のことが原因ではない。恋でもない。
・・・と語る。

彼は、全く異なる価値を志向していたのである。その事は、それぞれの舞台において認められる。

1 バサーニオーとの舞台

彼は、友人のグラシャーノーに、次のことを語る。

Ant. I hold the world but as the world,
Gratiano;
A stage where every man must play a part,
And mine a sad one.¹⁸

つまり、この世は舞台、誰も、そこでは一役演じなければならない、そして、彼の一役は、悲しい役・「泣き役」であると語る。そして、彼の泣き役は、友人のバサーニオーに対する友情において、本格的に始まっている。それは、次の台詞から読み取れる。

(1) 「全財産・身柄も御意のまま」

Ant. I pray you, good Bassanio, let me know it;
And if it stand, as you yourself still do,
Within the eye of honour, be assured,
My purse, my person, my extremest means,
Lie all unlock'd to your occasions.¹⁹

彼は、バサーニオーに対し、自らの財産と身柄、出来ることならば、全てを御意のままにと差し出している。

更に、続いて、その意思を加えている。

Ant. You know me well, and herein spend but time
To wind about my love with circumstance;

And out of doubt you do me now more wrong
 In making question of my uttermost
 Than if you had made waste of all I have:
 Then do but say to me what I should do
 That in your knowledge may by me be done,
 And I am prest unto it: therefore, speak.²⁰

バサニオーに対する好意を秤にかけるなどは、全財産を使いはたすより、もっと悪いとしている。そして、私が出来そうだと思うことを述べてもらいたい。喜んで、それをしようと表示する。

(2) 「流儀を捨てよう」

Ant. Shylock, although I neither lend nor borrow
 By taking nor by giving of excess,
 Yet, to supply the ripe wants of my friend,
 I'll break a custom. Is he yet possess'd
 How much ye would?²¹

・・・友人がさし迫って金が欲しいという、仕方がない、流儀は捨てることにしよう。

(3) 「面子を捨てる」

Ant. . . .
 But lend it rather to thine enemy,
 Who, if he break, thou mayst with better face
 Exact the penalty.²²

・・・敵に貸すのだと思え・・・。

友人のために敵に融通してもらうのであった。

(4) 「体を形にする」

Shy. . . .

Go with me to a notary, seal me there
 Your single bond; and, in a merry sport,
 If you repay me not on such a day,
 In such a place, such sum or sums as are
 Express'd in the condition, let the forfeit
 Be nominated for an equal pound
 Of your fair flesh, to be cut off and taken
 In what part of your body pleaseth me.

Ant. Content, i' faith: I'll seal to such a bond

. . . .²³

・・・期日までに返済できないときは、一ポンド体の肉を切り取る。

・・・その証文に判をつこう、・・・

まさに、生命を挺している。

(5) 「裁きを受ける」

Ant. I have heard
 Your grace hath ta'en great pains to qualify
 His rigorous course; but since he stands obdurate
 And that no lawful means can carry me
 Out of his envy's reach, I do oppose
 My patience to his fury, and am arm'd
 To suffer, with a quietness of spirit,
 The very tyranny and rage of his.²⁴

・・・法の定めるところ、・・・平常の心で・・・忍ぼう。

平常心で裁きを受けようとする。

(6) 「地に落ちる」

Ant. • • •

His Jewish heart: therefore, I do beseech you,
Make no more offers, use no farther means,
But with all brief and plain conveniency
Let me have judgement and the Jew his will.²⁵

• • • 早く事務的にかたづけてほしい • • • 。

Ant. I am a tainted wether of the flock,
Meetest for death: the weakest kind of fruit
Drops earliest to the ground; and so let me:
You cannot better be employ'd Bassanio,
Than to live still and Write mine epitaph.²⁶

• • • 病める羊 • • • 木の実も腐ったやつから地に落ちる。そうさせてほしい • • •
きみは長生きして • • • 。

Shy. • • •

Proceed to judgement: by my soul I swear
There is no power in the tongue of man
To alter me: I stay here on my bond.

Ant. Most heartily I do beseech the court
To give the judgement.²⁷

シャイロック

• • • 証文どおりにお願い致します。

アントーニオー

私からも申し上げます、どうぞお裁きを。

Por. You, merchant, have you any thing to say?

Ant. But little: I am arm'd and well prepared.
 Give me your hand, Bassanio: fare you well!
 Grieve not that I am fallen to this for you;
 For herein Fortune shows herself more kind
 Than is her custom: it is still her use
 To let the wretched man outlive his wealth,
 To view with hollow eye and wrinkled brow
 An age of poverty; from which lingering penance
 Of such misery doth she cut me off.
 Commend me to your honourable wife:
 Tell her the process of Antonio's end:
 Say how I loved you, speak me fair in death;
 And, when the tale is told, bid her be judge
 Whether Bassanio had not once a love.
 Repent but you that you shall lose your friend,
 And he repents not that he pays your debt;
 For if the Jew do cut but deep enough,
 I'll pay it presently with all my heart.²⁸

ポーシャ

なにか言い残すことはありませんか？

アントニオー

・・・覚悟はしていました・・・バサニオー、こうなったことを嘆かないでくれ、・・・奥さんに宜しく伝え、私がどんなに君のことを思っていたか話してくれ、・・・君が友人を失うのを悲しんでくれさえすれば、少しも悲しいとは思うまい、君の負債のために身を捨てるなどは・・・。

死に対しての躊躇は、認められず、寧ろ充実感に満ちている。

(7) 「命を賭けた働きに拘らず」

Ant. My Lord Bassanio, let him have the ring:
 Let his deservings and my love withal

Be valued' gainst your wife's commandment.

Bass. Go, Gratiano, run and overtake him;

Give him the ring, • • •.²⁹

アントニオー

• • • 指輪をあげてくれ、あの人の働き、私の友情を考えて• • •。

バサニオー

• • • 追いかけてくれ。この指輪を渡し、• • •。

2 シャイロックとの舞台

第三者をも救うために、憎まれることとなる。そして、さらには、死を迫った相手に対し、権利は捨てて、尚且つ救いの手をさしのべる。

(1) 「憎まれる」

Shy. • • • you have rated me
 About my moneys and my usances:
 Still have I borne it with a patient shrug,
 For sufferance is the badge of all our tribe.
 You call me misbeliever, cut-throat dog,
 And spit upon my Jewish gaberdine,
 And all for use of that which is mine own.
 Well then, it now appears you need
 my help:
 Go to, then; you come to me, and you say
 'Shylock, we would have moneys:' you say so;
 You, that did void your rheum upon my beard
 And foot me as you spurn a stranger cur
 Over your threshold: moneys is your suit.
 What should I say to you? Should I not say 'Hath a dog money? is it
 possible
 A cur can lend three thousand ducats?'

Or Shall I bend low and in a bondman's key,
 With bated breath and whispering humbleness,
 Say this;
 'Fair sir, you spit on me on Wednesday last;
 You spurn'd me such a day; another time
 You call'd me dog; and for these courtesies
 I'll lend you thus much moneys'?³⁰

シャイロック

・・・大声で毒づいた・・・邪教徒・人喰み犬・・・唾を吐く・・・足蹴り・・・。

Ant. • • • his reason well I know:
 I oft deliver'd from his forfeitures
 Many that have at times made moan to me;
 Therefore he hates me.³¹

・・・理由はよく分かっている。・・・何度もあいつの毒牙から人を救ってやった・・・かたを取られると泣きつかれて・・・おれが憎いのだ。

(2) 「権利を捨て減刑・改宗をはかる」

Ant. So please my lord the duke and all the court
 To quit the fine for one half of his goods,
 I am content; so he will let me have
 The other half in use, to render it,
 Upon his death, unto the gentleman
 That lately stole his daughter:
 Tow things provided more, that, for this favour,
 He presently become a Christian;
 The other, that he do record a gift,
 Here in the court, of all he dies possess'd,
 Unto his son Lorenzo and his daughter.³²

・・・財産の一半に対する罰金も免除してやって欲しい・・・他の半分は預かり、老人の死後、それは婿のロレンゾーと娘の所有とする・・・その条件として、Christianに改宗し・・・。

全ての人の幸福をはかる。Christianへの改宗も当時の社会では、幸福をはかることを意味している。

3 ポーシャとの舞台

命を賭けてバサーニオーを救ったことなど、全く恩に着せず、さらに、他者のために必要であれば、また、心身を挺していく。

(1) 「恩に着せない」

Por. You should in all sense be much bound to him,
For, as I hear, he was much bound for you.

Ant. No more than I am well acquitted of.³³

ポーシャ

・・・彼のために尽くした・・・。

アントーニオー

・・・大した事はない・・・。

(2) 「魂を形にいれる」

Ant. I once did lend my body for his wealth;
Which, but for him that had your husband's ring,
Had quite miscarried: I dare be bound again,
My soul upon the forfeit, that your lord
Will never more break faith advisediy.³⁴

・・・もう一度かけましょう、今度は私の魂をかたに・・・。

4 秘められた「泣き役」の原点

アントニオーの「泣き役」には、秘められた原点が認められる。

つまり、II—1—(1)でのバサニオーに対する好意は、全財産を使い果たすより、また、身柄およびその他できること全てのこと以上のものであるとし、全ては御意のままにと語る。ここには、自己の利害・打算等は全く認められない。次いで(2)では、友人のために流儀を捨てる。しかも、相手は、敵対関係にあるシャイロックである。ここでは、自己の存在基準を捨てている。そして(3)においては、私を敵と思え、そして違約した時は大威張りで形を取れと言明する。全く自我に捕らわれない。さらに(4)で、体を形に入れるもよしとする。生命を超越した価値に対して自己を捨てる。同じく(5)で、平常の心を盾となし、嵐を忍と言う。つまり、彼にとって平常より自己は無い。従って、何事にも動搖することはない。その平常心が盾となる。この点は(6)においても認められる。友人のために腐って地に落ちるも良し、そして、身を捨てても悲しくはないとしている。ここには、自己を超越した価値が秘められている。次いで(7)は、生命をかけた友情は全く気に留めていない。生命を至上の価値としてはいない。

また、II—2—(1)では、シャイロックから、形を取られ困窮する他人に対しても救いの手を差し伸べている。その(2)では、生命を形に取られた敵に対して全てを許し、さらに善導をはかっている。

尚且つII—3—(1)では、生命をかけた行為に対し自然体で拘りはない。天界の心で恩に着せることはない。加えてその(2)では、魂を形にしようと語り、全く平然と自己を超えて挺している。

5 価値観の視点

アントニオーは、価値観において、全く独自に存在している。その点は、次の他者において明白である。

サレアリオーは、アントニオーに対し、熱いスープを冷ます息一つ吹いただけでも大事だ、その息が、もし海の上なら、どんな疾風となって荒れ狂うかもしれないと思うと語る。つまり、海上の船荷・財産のことに連動して考える。

ソレイニオーも同様に、財産を海に賭けているとなれば、自分の魂の七分がたは、海上をうろつきまわると言う。船荷に何か気がかりなことでも起これば、それがどんな些細なことであろうと気を滅入らせてしまうだろうとしている。

バサニオーは、我が家の財政は惨憺たる有り様であり、それは自分の財力では荷の勝ちすぎた派手な生活を送ったことにあると認めている。その上に、ポーシャへの恋のため、アントーニオへ更なる借金を申し出る。また、箱選びでは、外観は中身を裏切るもの、いつの世も人は虚飾に欺かれると考える。つまり、そこには、裏切られてはならない利己がある。

ロレンゾーは、ジェシカとの恋で、どういう段取りで親父の家から連れ出すか、自由になる金や宝石はどのくらいあるのかとのことで心は跳ねている。

グラシャーノは、ネリサとの恋に対し、汗が出るほど搔き口説き、口の天井が干あがるほど愛の誓いをまきちらし、やっとのことで心をとらえ愛を勝ち得たと語る。

ポーシャは、箱選びに委ねるも、内心は打算に満ちている。モロッコ王に対して、あの肌の男たちは皆、今のような選び方をするようにと願う。アンゴラ王にも考えすぎる阿呆殿と語る。また、バサニオーに指輪を与える、それを盾とする。

ネリサは、ご馳走を召し上がりすぎると体を悪くする、となると身分はいい加減な方が、いい加減な幸せが手に入るとして、利己に浸る。そして、彼女も彼に対して指輪を盾に取る。

シャイロックは、全ての基準・行動の基本は金であり、また個人的な怨念に縛られて妥協しない。それらに取り付かれ異常に執着し、心静まる事はない。娘に対し、くたばろうとも宝石だけは、耳に残せと語る。アントーニオーの船が難破の報に対し、吉報として狂喜する。

モロッコ王は、鉛の箱の意図、我を選ぶものは己の持ち物すべてを手放しなげうたざるべからずに対し、全てをなげうつ以上、それだけの利を見越してのことと語る。

ランスコットは、奉公先選定に対して、バサニオーの旦那は、いつも、とびきり上等のお仕着せを新調してくれるとする。

老ゴボーは、ひたすら老後に苦心する。息子のランスコットのみを老後の杖とも柱とも頼む。

ジェシカは、愛するロレンゾーに満ちている。そのため、父親を恥じ、さらにはキリスト教徒になって見せようとする。

アンゴラ王は、銀の箱の意図、我を選ぶ者は己にふさわしきものを手に入れるべしに対し、自己の値打ちに執着している。さらに、世には影を求めて口づけをするものあり、はたまた影の祝福に酔うものありの意図にあるとおり、自己の影に捕らわれている。

テュバルは、アントーニオーの船が難破の報に狂喜するシャイロックに同調し、行動する。

公爵は、自己の思惑どおりに事が運ばぬと力に訴えて、閉廷を命じるとして利己に満ちる。

III 東西における接点

ここに至り、神道夢想流杖術形とアントニオーには、本質面において秘められた志向性が認められる。

1 神道夢想流杖術形とアントニオーの本質

神道夢想流杖術形の本質は「余白」である。各形には、深遠な余白への志向性が認められる。

古伝武藝における形は、いわゆる藝術作品に位置するものである。作品には、その内容において精神的側面に裏付けられた形が開示されている。

つまり、神道夢想流杖術における表業・「太刀落」〈図1〉は、太刀を繰りつける時点で相手の面を一気に突くことが可能である。しかし、形においては、あえて、その挙に及ばない構造と成っている。制するに留めて、さらに次々と留めていく。同様に、次の「鍔割」〈図2〉においても太刀をかわして、右小手を打つ時点で、面を打つことで相対は決せられるが制するに留めている。このように、極地まで留めた後に決するわざを繰り出す。ここには、言わば余白が漸次展開されていくかの様相を呈している。古伝武藝の多くの形は、その構造を有している。³⁵

つまり、本質以外は、余白・余地と言える。

まさに、その余白には、精神的余地としての雄大な精神世界が開示されていると言えるものである。

そして、アントニオーの本質は、彼の語る「舞台」に認められる。

この世の舞台において、やがて役者は、舞台を降りる時を迎える。そして、全ての物理的価値は、無と化していくことを余儀なくされる。

この前提に、彼は、まさに、自らを成熟させ、この世の一般的価値を捨て去り、やがて迎える無の世界・天界の境地・魂の境地・心的価値へと開花している。

それに向かって、この世の全て、自己をも捨てて徹底している。そこには、全く打

算はなく、所謂「無私」「無心」であり、他のために自然体で「泣き役」となることに終始貫かれている。

その意味で、彼の志向性は、自ら語る「この世は舞台」に秘められている。舞台に幕、この世に幕、無に帰するとして達観している。さらに、この世は舞台、誰も一役演じねばならないと語る。そこで、彼の語る「泣き役」は、第三者の視点で認められる。しかし、彼自身の視点では、夏目漱石における「則天去私」私を去って天に従う、小欲、エゴイズムからの脱却に通じる。大覚、成熟、超越した「無」への志向に対して自然体の姿勢を認めることができる。

2 藝術の普遍的本質

優れた藝術作品には、普遍的な要素が認められる

これは、「間」「空」「余白」「無」であろう。この点は、東洋における独自の美意識である。ここに、心的平安觀が宿るのである。

特に、日本における、武藝界では、その事例は、多く認められるところである。

この点における「無」は、シェイクスピアにおいても、また重要なテーマとなっている。

それは、彼による四大悲劇に認められるとおりである。

『マクベス』での「人の生涯は、働きまわる影にすぎぬ。あわれな役者だ、…そして、とどのつまりは無…意味するところは無だ。」また、『リア王』では、コーディーリアが「申し上げることは何も無い。」それに対し、リア王は、「無から生じる物は無である。」と語り、結局自ら無と化していく等である。

しかし、これらは、単なる無を意味していない。

まさに、「余白」「無」は、不滅の藝術の普遍的要素と言える。

結言

神道夢想流杖術形は、自己とわざを超えた域へ昇華していく。

そして、アントニオは、「泣き役」を演じたが、その本質は、「微笑役」であった。自己を超越した平安に位置させることによる。それに対し、他者は、世俗的価値を求めて止むを知らない。手にしたところで、失う不安に動搖して安堵を得ない。つまりは、虚飾に惑う。

まさに、神道夢想流杖術形とアントニオの接点は、「無」である。

その志向性の基に自己を超越させることにより、永遠性を生じさせるに至る構造を備えた藝術作品であろう。

参考・引用文献

- 清水隆次監修・中嶋浅吉・神之田常盛『神道夢想流・杖道教範』日貿出版。1975.
 シェイクスピアの四季刊行会編『シェイクスピアの四季』篠崎書林。1984.
 岩井克人『ヴェニスの商人の資本論』筑摩書房。1984.
 Sanki Ichikawa and Takuji Mine, *The Merchant of Venice*. Tokyo Kenkyushia. 1989.
 抽稿「古伝武藝形の生成における徳性について — 神道夢想流杖術を視点として — 」(『武・徳 第15号』國士館大学武徳研究所。2000.)

- ¹ 抽稿「古伝武藝形の生成における徳性について — 神道夢想流杖術を視点として — 」(『武・徳 第15号』國士館大学武徳研究所。2000.)
- ² 夢想權之助勝吉「神道夢想流杖術」1605～1614. (清水隆次監修・中嶋浅吉・神之田常盛『神道夢想流・杖道教範』日貿出版。P20.1975.)
- ³ 同書p19.
- ⁴ 同書p.78.
- ⁵ 同書p.19.
- ⁶ 同書p.130.
- ⁷ 同書p.19.
- ⁸ 同書p.208.
- ⁹ 同書p.19.
- ¹⁰ 同書p.19.
- ¹¹ 同書p.288.
- ¹² 同書p.288.
- ¹³ 同書p.19.
- ¹⁴ 同書p.319.
- ¹⁵ 同書p.20.
- ¹⁶ Shakespeare, *The Merchant of Venice*. 1596～7. (Edited with Introduction and Notes by Sanki Ichikawa and Takuji Mine, *The Merchant of Venice*. Tokyo Kenkyushia. p.3. 1989.)
- ¹⁷ 同書 p.4-5.
- ¹⁸ 同書 p.6.
- ¹⁹ 同書 p.8.
- ²⁰ 同書 p.9.
- ²¹ 同書 p.17.
- ²² 同書 p.20.
- ²³ 同書 p.21.
- ²⁴ 同書 p.77.
- ²⁵ 同書 p.79.
- ²⁶ 同書 p.81.
- ²⁷ 同書 p.86.
- ²⁸ 同書 p.87.
- ²⁹ 同書 p.94.
- ³⁰ 同書 p.19-20.
- ³¹ 同書 p.69.

³² 同書 p.91-92.

³³ 同書 p.102.

³⁴ 同書 p.106.

³⁵ 拙稿「古伝武藝形の生成における徳性について——神道夢想流杖術を視点として——」(前掲書。)